# 第6回　NIE帯広・十勝セミナー

## 「上士幌高校での新聞作り」

北海道上士幌高等学校

英語科／新聞局顧問　佐々木あずさ

日　時　2月9日（土）13時30分より

場　所　十勝毎日新聞社　5階会議室

## 1　上士幌高校概要

### （1）歴史

昭和２５年　北海道川西農業高等学校上士幌分校として設置
２６年　北海道上士幌高等学校として独立認可（定時制普通科、農業科各１学級）
３６年　全日制普通科２学級となる
３８年　道立移管
４９年　定時制農業科募集停止、全日制普通科１学級増となる
５２年　定時制課程閉課
平成　３年　全日制普通科１学級減
５年　完全２間口となる
１２年　「生き生きとした魅力ある高校づくり」指定
１３年　「未来を作る高校教育推進」指定
１６年　「夢と活力あふれる高校づくり推進事業」奨励校指定
１８年　「北を創る人づくり」アントレプレナーシップ研究校指定

### （2）在校生

| | 男子（人） | 女子（人） | 合計（人） |
|---|---|---|---|
| １　年　生 | ２１ | ２２ | ４３ |
| ２　年　生 | １７ | ２３ | ４０ |
| ３　年　生 | ２０ | １７ | ３７ |
| 合　　計 | ５８ | ６２ | １２０ |

### （3）　本校の特徴

- 各クラス２０名前後の生徒数のため、生徒個々人の成長課題がわかり、個別指導が可能。
- 一年次前期は全員が部活に加入。加入率については以下のとおり。

| | |
|---|---|
| １年生　８１％ | ・学校生活に目を向ける |
| ２年生　８０％ | ・「やりきった」達成感 |
| ３年生　９７％ | と真の自信を持つ |

- 総合学習を通した丁寧なキャリア教育の積み重ね
- 行事を大切にしている（遠足２回、体育大会２回、学校祭、予餞会、見学旅行）
- 多くの生徒が活躍できる場の設定　（委員会活動、部活動、検定取得全校集会での賞状伝達）

（４）進路動向

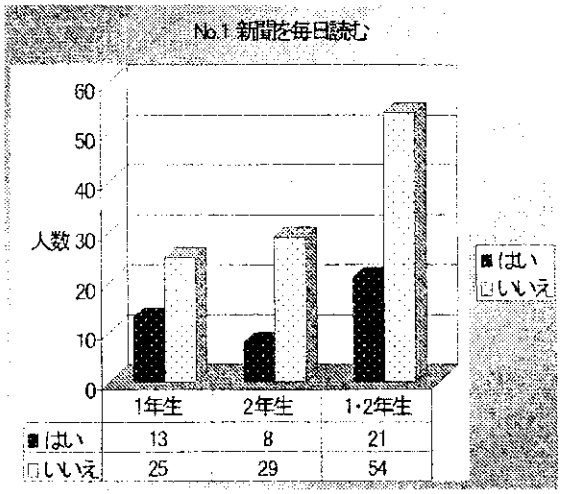
進学率、就職率１００％・・・・・・次の課題は？！

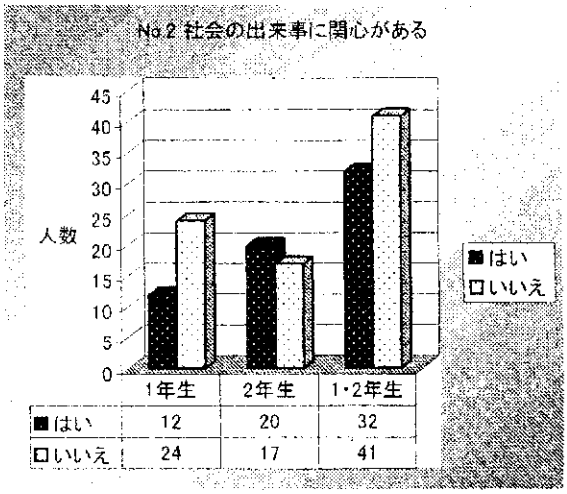
国公立大学の推薦合格

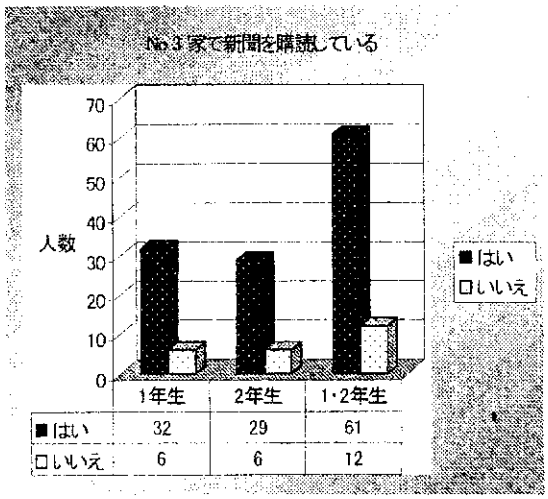
| 年　　度 | 大　　学 | 人数 |
|---|---|---|
| 平成１９年度 | 北海道教育大学釧路校 | １名 |
| １８年度 | 弘前大学 | １名 |
| １７年度 | 釧路公立大学 | １名 |
| １６年度 | 北海道教育大学釧路校 | １名 |
| １５年度 | 釧路公立大学 | １名 |
| １４年度 | 北海道教育大学釧路校 | １名 |

・・・・・・次の課題は？！

（５）新聞購読の状況（アンケートより）　2008年2月6日実施　回収率９３％




No.4 社会の情報を得る情報源（延べ人数）

| 学年 / 項目 | １　年（人） | ２　年（人） | １・２年（人） |
|---|---|---|---|
| テ　レ　ビ | ３８ | ３２ | ６９ |
| インターネット | １３ | ５ | １８ |
| 新　　聞 | １３ | １０ | ２２ |
| 携　　帯 | ４ | ２ | ６ |

## 2　新聞の活用

### （1）総合学習とLHR

自分が体験したことを、未体験の同級生、先輩、後輩、家族などに知らせるための新聞作り

① 1年次の総合学習「大学・専門学校体験訪問」研修録

② 2年次のLHR「沖縄への見学旅行」研修録

### （2）新聞局

新聞局員　1年生3名

「蒼穹」

① B4版サイズのワープロ新聞

② 昨年4月より10ヶ月で28号発行

③ 学校内の話題（部活動、生徒会、行事）を中心とした記事

・・・・・辛い練習に汗を流す部活動や行事の準備に走り回る生徒会の姿を観察し、共感し、応援しようという気持ちを持つのが目標

④ 長期休業中も活動するには（体育系部活は休みナシで練習に励むムードができつつあるのだが・・・・）

・・・・・上士幌町内で「世界」と繋がろう！

高校生により、はるか昔の原子力発電所の事故について学ぶ

・岩波ブックレットの輪読会

・NHKのドキュメンタリー番組の視聴

・いざ取材活動へ

チェルノブイリ、ウクライナ、ベラルーシから、自分の世界を広げることと他者への共感をもつ人間性の育成が目標・・・

⑤ 4コママンガの掲載

チョッとばかり政治風刺風？！

取材や記事書きには後ろ向き。でも得意のマンガで表現したい。・・・・・そのためには、硬派の新聞を眺めなければならない

⑥ 局員の成長

「私は今までヒトに関心を持たないようにしていました」

引っ込み思案の自分を変えようとする局員

全道大会に参加し、交流と学習を通し、力をつけていく

（＝定期的に新聞を発行する。アンテナを伸ばして取材をしていく決意。来年は局員全員が全道大会に参加し、感動を共有したいという願い）

「上士幌高校新聞」　昨年復刊したタブロイド版。今年は・・・？！

（3）ライティング（3年生の進学を希望する生徒対象の選択授業）

| | 単位 | 受講生徒 | 到達目標 | 授業内容 |
|---|---|---|---|---|
| 標準コース | 3 | 6 名 | 英検3級 | 基本的な英文による自己表現力の養成 |
| 上級コース | 3 | 5 名 | 英検準2級 | センター試験対応の演習問題 |

標準コースの生徒：1名が英検準2級に合格予定（筆記試験にはすでに合格）

上級コースの生徒：1名が英検2級に、2名が準2級に合格。

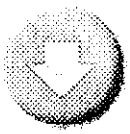
1名が英検2級に、1名が準2級に合格予定（筆記試験に合格）

＊上高で培った英語力で、上高をアピールしてみよう！・・・ここまでできる上高生たち

（4）新聞への投稿

「自分の意見を北海道に発信しよう！」

掲載による「効能書き」？！



・本人が、社会に認められたと感じる第一歩

・「へえ、すごい！」と賞賛できる同級生

・投稿生徒に関わる教員の喜び（クラス、学年、部活動）

# アンケート

アンケートに答えてください。

1　新聞を毎日読んでいる　　はい　・　いいえ

2　社会の出来事に関心がある　　はい　・　いいえ

3　社会の情報をどこから得ていますか。当てはまる媒体を○で囲んでください。

新聞　テレビ　ラジオ　インターネット　その他（＿＿＿＿＿＿）

4　図書館前の新聞をほぼ毎日読む　　はい　・　いいえ

5　家では新聞を購読している　　はい　・　いいえ

6　1で[はい]と答えた人だけ回答してください。購読している新聞を○で囲んでください。

北海道新聞　十勝毎日新聞　朝日新聞　読売新聞

スポーツ新聞　日本経済新聞　その他（＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿）

ご協力ありがとうございました

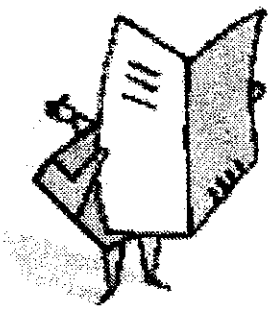
# 【研修新聞の取り組み】

貴重な『体験学習』の終着点が研修新聞の作成です。これは事前学習と当日の体験学習をしのぐほど大変な取り組みでした。

学習班の集大成となる新聞作りにはいろいろな力を結集させなければなりません。締め切りまでの時間配分、表現力、班員の仕事の分担など頭を悩ます課題が山積していました。

今回は「躓いたところ」から何かを学んでいったはずです。出来上がった新聞を眺める生徒からは、「こうすればよかったナァ」という呟きが聞こえてきました。次の行事での取り組みにつながる「力」を身につけ、協力し合って完成させるという「総合力」を磨いていく大きなキッカケになったはずです。

生徒自身、出来上がりに満足はしていません。今度はどんな工夫をするのか考えながら、どうぞゆっくりお読みください。



# 学年通信「Open-Minded」の第 8 号(10 月 25 日発行)より抜粋

## 心に刻むべき言葉 2 編

研修の柱となってくれたのが、1 年A組の金木梓さん、そして 1 年B組の白石はるかさんだ。進路委員として、どの場面でもとても気持ちよく仕事を引き受け、常に笑顔でその責務を果たしてくれた。私たち教師にとってこんなに力づけられることはない。自分たちの学びを自分たちで責任を持とうという「思想」は一朝一夕で出来上がるものではない。きっと、それまでにはいろいろな壁を乗り越えて 16 歳になったのではないかと確信する。

さて、ここに二人の言葉を載せておきたい。出発式と解散式の生徒代表挨拶をしてくれたとき、私たちは胸が熱くなった。この研修の意義をしっかり考え、自分らしい言葉＝個性で言葉を発信してくれた。私たち教員は何のアドバイスもしていない。彼女たちの言葉を聴き、「物事を考え」「自分の個性」を表現できる生徒が育っていると実感する挨拶だった。

いよいよ今日から、大学・専門学校訪問が始まります。このような貴重な経験をさせてもらう以上、たくさんのことを学び、充実した 2 日間を送ることができるよう努力しましょう。また、上士幌高校の看板を背負っているということを忘れずに、秩序ある行動を心がけましょう。それでは皆さん、頑張りましょう。

生徒代表　1年B組　進路委員
白石はるか

皆さん 2 日間お疲れ様でした。大学・専門学校訪問はどうでしたか？今回の体験で学んだことは、たくさんあると思います。それをこれからの自分に生かして、もう一度よく真剣に、自分の将来について考えてみてください。今日は、ゆっくり休んで明日からまた元気に頑張りましょう。

生徒代表　1年A組　進路委員
金木　梓

### 新聞作成について

1年A組　佐々木郁美

新聞作りは、思っていたよりも難しかったです。編集を任された身でありながら、打ち込み作業は何一つできませんでした。でも班員が、自分の代わりにワープロに入力してくれました。期限には間に合いませんでしたが、何とか提出することができました。これも全部、班員のおかげだと思います。自分のいない間に作業を進めてくれてとても嬉しかったし、安心もしましたが、何もできなくて申し訳ない気持ちでいっぱいです。みんな、部活動などでいろいろ忙しかったと思うけれど、一生懸命やってくれました。みんなの作業をしている姿を見て、自分の無力さを思い知らされました。

この新聞作りを通していろいろなことを学べました。みんなで一つのものを作り上げることの難しさや、時間厳守という時間の使い方についても考えさせられました。みんなの力になれなかったけれど、新聞ができたときはすごく嬉しかったです。ここで学んだことを、次の学校行事に生かしていきます。

# Big国!/ 浅井タウン

【浅井学園大学　E班】

☆ Free school DE Enjoy life ☆


班長　須藤千紘
記録　佐藤友梨
編集　佐々木郁美
発表　白石はるか
発表　斎藤友晶


## 講義で得た意外な事実！

私たちは十月十九日に、浅井学園大学に行って、福祉についての講義を受けてきました。

講義をしてくださったのは、中村和彦先生です。講義テーマは『社会福祉を考える視点』でした。

講義内容は、『福祉と社会福祉』について。私たちは、福祉というものを一括りに『介護』というイメージをもってしまっていました。けれども、本来、福祉というものの意味は『ある人の生活が（その人なりに）安定した、幸せな状態が続いていること』だそうです。介護もするけれど、福祉はそれが全てではないということでした。

その福祉と、社会福祉というものはまた別もので、社会福祉というのは『社会の仕組みとして、他の人の手助けが必要となる人々を支えていかなければならない』という意味だそうです。

講師の中村先生は「福祉は優しさが必要なことだけど、社会福祉は手助けが当たり前で、優しさは別にいらない」と言っていました。

優しさが必要な福祉と違って、社会福祉が意外にシビアなことだったという話に、私たちの普段の福祉全般に対してのイメージがいかに甘い考えだったということか、思い知りました。

## ＊施設を見て＊

講義が終わってから、施設を見学しました。浅井学園大学の図書館は、3階建てになっています。たくさんの本があるそうです。

他の施設もたくさんあり、例えば体育館が3カ所、スポーツジムが3カ所、陸上グラウンド、サッカー場、野球グラウンド、スキューバダイビング、ロッククライミングが出来る場所がありました。一般の人が使える時間帯があるそうです。

本格的な福祉施設があり、病院と同じ造りの教室がありました。

浅井学園大学の施設は、広くてビックリしました。いろんな施設が見れて良かったと思いました。

## もっと知りたい浅井学園！

**Q、入学後に生徒がやる気をなくした場合、その生徒に対し学校側はどのような対応をしているのですか？**

A、その場合は身近な先生に相談するか、またはそのような生徒のために設けられた学生相談室で相談することができます。

**Q、生活福祉学科の「生活と福祉の視点で暮らしを支える」ということで一番気を配っていることは何ですか？**

A、福祉とは生活を支えることで存在しています。一方的なサービスではなく、その人の生活がどのような要素でできているかを考え、福祉と生活との両方から支えることに気を配っています。

**Q、芸能メディア学科での二年時終了後、4つのコースに分かれたときの実技と授業の割合はどのぐらいですか？**

A、実技が1で、授業が2～3の割合です。

**Q、リハビリについても勉強するのですか？**

A、リハビリというカリキュラムにはなっていません。一人一人に合った介護を勉強します。

## ～編集後記～

大学とは、なんだろう。小学校、中学校、高校と続いてきた。勉強の最終地点と世間では思われているかもしれない。でもそれは違う。大学では勉強と言ってもただの勉強ではない。自分の可能性を高めると言う、未来の道を切り開くための大切な場所。

お世話になった佐藤さんを始めご協力してくださいました先生方に本当に感謝しています。

# 前進

班長　古賀一成
記録　川村明恵
編集　足立真利江
発表　菅野翔平
発表　金木梓

浅井学園大学
～D班～

## 浅井学園上陸

### 施設について説明

十月十九日、私たち五名は『北海道浅井学園大学』を訪問しました。

浅井学園大学にはたくさんの施設がありました!!最初にアリーナ体育館を見学しました。デカくてしかも客席もあってしかもそれが3つもあるというスケールでした!!次にダイビング用のプールの水の中を見ました。壁がプールの中なんです!!ちょっと酔いそうでした。次にロッククライミングが体験できるトコを見ました。自分もやりたくなりました。その他にもトレーニングジムや、介護のベッドがある部屋など見学しました。

浅井学園大学には勉強ばかりのための施設ではなく、趣味・娯楽を満たす施設もあると感じました。

実際に自分の目で見て、耳で聞いて、肌で感じることができました。

### 訪問して印象に残ったこと

心に残っていることは学校の大きさ、生徒が登下校で使用している自転車の数、すごく大きい図書館です。見たときは本当に感動しました…。学校の中は広すぎて何だか迷路みたいでちょっと迷ってしまいそうでした。自転車の数は数えきれないほどありました。あらためて生徒の人数の多さを感じました。図書館は時間がなくて中を見学することはできなかったけど話によると本当に広くていろんな種類の本がたくさんあるそうです。町にある普通の図書館と全く変わらないんだなぁと思いました。

最後に、とにかく浅井学園にはいろんな施設があって不便なく生活できるところだと思いました。

ロッククライミング

講義の風景

みんな真剣に授業を受けています

### 福祉と社会福祉について

まず初めに講義の先生は福祉に対するイメージをみんなに聞いて僕達は考えさせられました。みんなは手だすけ・思いやり・介護・人のために何かをすること・協力などと先生に答えました。

次に福祉と社会福祉の意味について勉強しました。福祉とは『幸福・幸せな状態を保つ、続ける』という意味で、社会福祉とは『社会の仕組みとしてそのような人々を支えていかなければならない、自分自身や身近な人(家族)などの応援だけでは課題が解決しない→その他の手助けが必要となる、ある人が生活していく上で課題を抱える』という意味です。僕は自分がイメージしてた福祉とは違った。さらに福祉と社会福祉の意味を知った。

続いて身近にある社会福祉の問題についても勉強しました。身近にある社会福祉の問題とは子供が虐待を受けている・公園にホームレスが増えている・老人が一人で暮らす事を不安がっている事だそうです。

今回の講義でたくさんのことが学べて良かったです。

### 施設を見学して・・・

浅井学園大学は、いろいろな施設がありとても充実していました。介護用の施設はもちろん、その他にも体育館が3つもあったりと運動のできる施設がたくさんあります。学生以外の一般の方、特に親子連れなどが多く訪れていました。

介護用の施設はとても立派でした。全体的にキレイで清潔感があり、ベッドの数もたくさんあり、まるで本物の病院のようでした。

もっともっと、いろいろな施設を見てみたかったです。

### 編集後記

今回の大学訪問で私達はとても貴重な体験をさせてもらいました。時間は少なかったけど学んだ事はたくさんありました。

浅井学園の方々、本当にありがとうございました。

# 未来の扉

（大原医療福祉専門学校　E班）

班長　須藤千紘
記録　佐藤友梨
編集　佐々木都美
発表　白石はるか
発表　斉藤友晶

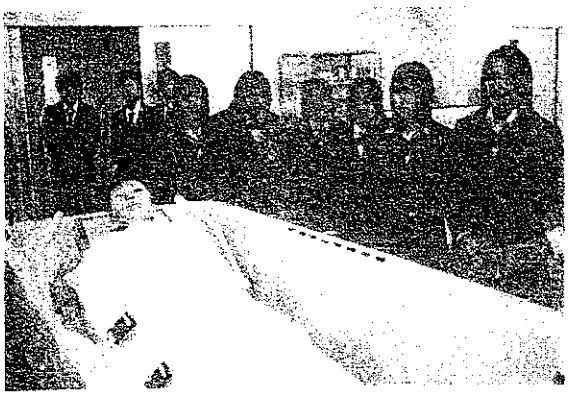
## 多くの実習大きな力

私たちは九月二十日に大原医療福祉専門学校に行ってきました。

大原の構造は地下に一階、地上に四階で部屋数が多かったです。調理・家政室や歯科準備室、入浴実習室など、本格的な施設が整っており、エレベーターも病院と同じサイズ（ベッドも入る大きさ）でした。

入浴室にある浴槽は、底が上がってくる形で、患者側も看護側も負担のかからない最新の浴槽でした。費用は約一千万円だそうです。それに肌触りが人間に近い人形などの看護の練習に使う人形（各約五十万円）などがいくつもありました。

そういった整った設備の中で、大原は実習を多く取り入れ、より実践に近い授業を本格的に受けていきます。また、学校の外に出て、病院へ体験実習を受けに行ったりもします。



学校を出たらそのまま就職ができるように、大原医療福祉専門学校はより確かな方法で短期間で確実な実力を身につけられる取り組みが多く行われていました。

将来の道が決まっているのなら、大学よりも専門学校への道を通る方がよりしっかりとした土台作りができ、迷いのない意志が作り上げられ、就職にもつきやすくなると思いました。

## もっと知りたい大原医療福祉専門学校！

**Q.** 保育福祉学科に選択授業がないのはなぜですか？

**A.** 夜間の学科のため、講師を呼ぶことができないからです。

**Q.** 学校側が生徒に求めているのはなんですか？

**A.** 時間を守ることぐらいです。校則はなく、生徒たちは自由な服装や髪型をしていますが、実習前には自分たちでなおします。

**Q.** 子弟入学制度について詳しく教えてください。

**A.** 子弟入学制度とは、自分の兄や姉、または親が大原の卒業生だったら、入学金（十二万円）が免除になるという制度です。

## 専門学校の利点

専門学校は大学と比べ、自分の学びたいことをより深く追求し、知ることができるところだと感じました。

授業では、一人一台のパソコンを使用できて、それぞれ自分に必要である知識や資格などについても知ることができるようでした。決められた時間のなかで個人個人自分が求めるものを学び、勉強面だけでなく、精神的にも自己を向上させられる場所であると私たちは思いました。

このことが専門学校の利点であると私たちは思います。

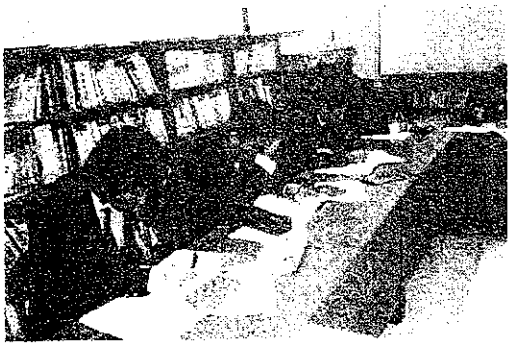
## 編集後記

専門学校と言うものは、大原医療福祉専門学校へ行くまでは、学校の敷地内にすごくおおきな校舎などがあって、物々しい雰囲気をかもし出す所だと思っていた。

だが、実際訪問してみると校舎そのものがビルだと知ってびっくりした。充実した設備であるのと同時に、雰囲気も落ち着いていて、勉強しやすい環境だと思った。そんな環境の中で実際に模擬講義を行い、点字などもやらせていただいた。

こんな体験をさせていただいた大原の皆様に心より感謝しています。

ありがとうございました。



# 世界を廻った長渕さん

【上士幌高校　H班】

| | |
|---|---|
| 班長 | 星　裕太 |
| 記録 | 佐藤亜依 |
| 編集 | 新田知恵美 |
| 発表 | 遊谷聡美 |
| 発表 | 田中杏奈 |

## 具だくさん

### グラタン

調理実習を体験させてもらいG班と合同で「マカロニグラタン」を作りました。わたしたちは最初、下ごしらえとして食材を切らせてもらったり、えびの殻むきや背腸をとらせてもらいました。その次に食材を火の通りが悪い順にいためていき、その後、先生が作っておいてくれたホワイトソースにいためた食材、マカロニをたくさん入れて、ナベを火にかけました。そして、塩、こしょうで味を調えて生クリームをたくさん入れました。生クリームを入れるとおいしくなるそうです。最後に、グラタンをお皿に入れて、いろどりにグリンピースを入れ、チーズをかけて10分くらいオーブンで焼きました。そして、みんなでグラタンを食べました。とても、おいしくできました。

→中央は、グラタンの具をいためる佐藤亜衣さんです。

### ～包丁3本長渕さん～

副学校長の長渕先生は私達にグラタンの調理実習をやらせてくれました。その時長渕先生は料理についてや学校のこと、自分のことなど話してくれました。その話の中で「志を高く持つ」「包丁2本で世界へ行ける」という2つの話が本を持って長渕先生は世界へ行ったそうです。英語など話せなくて、言葉が通じなくても料理は世界共通の文化なので料理ができるきちんとした腕を持っていればどこへ行っても通用するそうです。

他にも、実習中長渕先生が料理は今ある食材で作れなければならないから「頭が良すぎても、悪すぎてもダメ」だと教えてくれました。あと、食べさせる人のことを思い浮かべて作ると気持ちも伝わるとおっしゃっていました。

## 宮島学園は・・・・

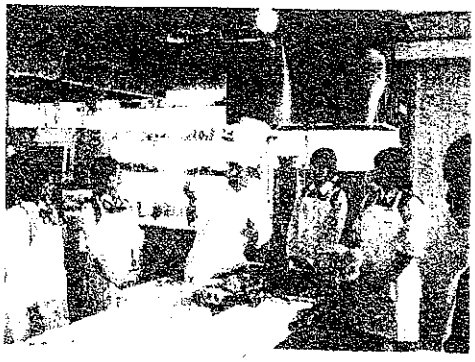
### おいしい学園

宮島学園の施設は調理の勉強をしたい人にとても良い環境だと思いました。

実習の時に座っていても先生の手元が見れるような工夫や、調理の器具がいろいろそろっていました。

### スーパーキッチン

宮島学園には「スーパーキッチン」という調理のための専門的な機具がそろっていました。火力の強いガス台や、実習で作ったものを食べられるレストランなどがあるとても広い調理場でした。大きなオーブンが何個もあったり、ワインセラーも完備されていました。レストランでは、卒業パーティなどが行われるらしいです。とてもすばらしいキッチンでした。



## 編集後記

今回、宮島学園を訪問して調理師専門学校についてたくさんのことを知ることができて本当によかったです。長渕先生の話や授業を受けてる生徒を見て、とても感動しました！ありがとうございました。

伊江島民泊レポート【 G班 】

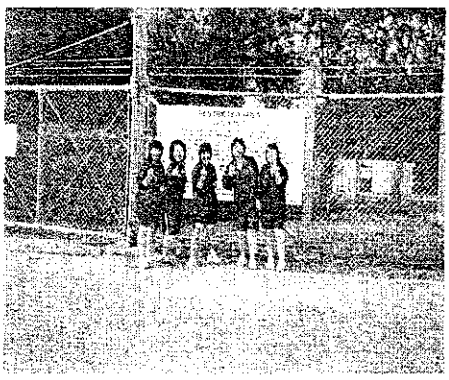
# 伊江島との出会いと別れ

【メンバー】松山由佳　大西悠加　菅原理衣
岩田まどか　阿部美保

伊江島の名嘉真さんのお宅に民泊しました。お母さんから「おっかー」と呼ぶように言われました。おっかーはとても明るくて若い人顔負けのハッチャケぶりでユーモアあふれる方でした。

おっかーの家では、沖縄のお菓子、サーターアンダーギーをいただきました。味はドーナツに似ていて、形は小さい球形のものでした。とてもおいしかったです。また、沖縄料理を教えてもらいました。サンゴでシーサーの置物作りもしました。みんな真剣に作り、とてもいい出来ばえでした。

海体験ではジイジにボートに乗せてもらい、ボートの操縦もしました。5人の中で、大西悠加さんと松山由佳さんの操縦が荒かったです。



伊江島観光では、城山に登りました。頂上はとても見晴らしがいい所でした。私たちがサトウキビを食べたいと言うと、おっかーが近所にあるサトウキビの畑にいた夫婦に交渉し、食べさせてくれました。サトウキビは、かむごとに甘くなっていき、とてもおいしかったです。そしてお土産として持たせてくださいました。米軍基地の前では記念撮影をし、夜はもう一度城山に来て星を見ました。星と伊江島の家の光でとてもきれいな夜景でした。帰りにはたくさんのお土産をいただきました。

〈編集後記〉

この見学旅行の中での伊江島民泊は、伊江島の人たちの優しさと人と人とのつながりを見ることができました。この民泊を通してみんないい思い出ができました。

伊江島民泊レポート【 F班 】

# 伊江島生活

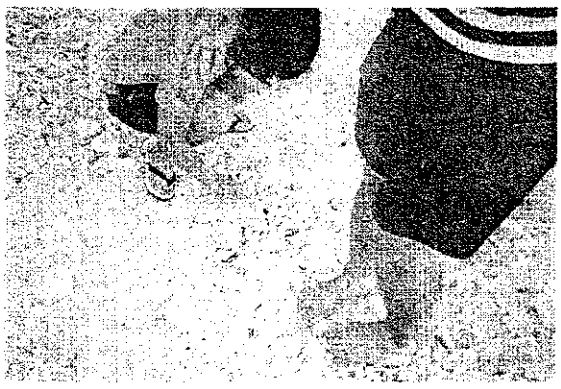
【メンバー】小林亜衣花　長屋麻里子
石川佳奈　坂井亜希

私たちの班は沖縄料理を学ぶため玉城長良さんの民家にお世話になりました。でも、沖縄料理は時間がかかるということで食べて学ぶと言うことになり、急遽貝細工をすることになりました。貝細工では、海でサンゴや貝を拾いストラップを作りました。

驚いたことは島にコンビニやおみやげ屋さんがあったことと、道が入り組んでいて「こんなところにも道路！？」と思いましたが道に迷わずスイスイと走っていました。伊江島は小さい島なので一日で周ることができます。小さいのにグスク山という山やワジイという海があり、見所がぎっしりと詰まった素敵な島です。

島中を案内してもらい、伊江島にも戦争の傷跡が多かったことが、印象に残りました。伊江島にある資料館の中は戦争の傷みを物語るかのようでした。あと、沖縄の名産物などを教えてもらって、マンゴーは宮崎県のフルーツだと思っていたら、沖縄のフルーツだと知りました。そして、伊江島では水が大変貴重で、お風呂にお湯を溜めるのは年に一回くらいだと学びました。

感動したことはビーチで遊んだ時に、海の色が透き通って綺麗だったことです。また、貝細工をしてビーズなどの細かい作業がとても大変だったけれど、一つ完成するたびに達成感を感じました。



## 編集後記

このレポートを書いて、伊江島での思い出をまた思い出すことができました。この体験はもうあるかどうかわからないのでいい体験になりました。本当にお世話になりました。

# 野球部新人戦 活躍する選手達

蒼（そうきゅう）宵

発行者
上士幌高等学校
新聞局
第１８号
平成19年9月13日

| | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 緑陽 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 | 4 | 3 | 9 |
| 上士幌 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 3 | 3 |

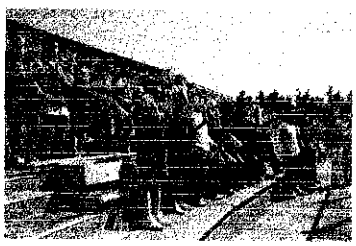
九月九日（日）十二時に上士幌対　帯広緑陽の新人戦が開始が一日遅れましたが、行われました。

三年生が抜け、一・二年生が主体となった新チーム臨んだ試合です。一回から五回までは両校目立ったミスもなく、無得点でゲームが進んでいきました。六回に上士幌は満塁で、先制点を得るチャンスがありましたが、惜しくも得点を入れることはできませんでした。

七回、八回、九回で緑陽に得点を加えられ9対0とされるも、九回裏の上校の攻撃。先頭バッターの南部君がセンター前へ運び、一塁へ走り、相手のミスで二塁へ。次のバッターは四番名取君。このとき南部君が3塁へ盗塁。相手がボールを落とし、その隙にホームへ走り込み、一点を返しました。

八番バッターの玉木君がレフト前ヒットを打ち、塁に出ていた名取君がホームインし二点目を返します。そして九番バッター松尾君のセンター前ヒット

この回で三点を入れたものの9対3で惜しくも帯広緑陽高校に敗れました。しかし、選手たちの成長した姿を見ることができた試合でした。



| | | |
|---|---|---|
| 1 | 小野内 | ショート |
| 2 | 稲葉 | ピッチャー |
| 3 | 南部 | レフト |
| 4 | 名取 | キャッチャー |
| 5 | 宮内雄 | ファースト |
| 6 | 柳瀬 | セカンド |
| 7 | 鈴木 | サード |
| 8 | 玉木 | センター |
| 9 | 松尾 | ライト |

## 選手インタビュー

**小野内章人君**

惜しい所までいったのに負けてしまったのが口惜しい。もう少しやれることがあったのではないかと思う。夏休みの最初はチーム的にあまりよくなかったが、最後のほうはとてもよかった。この経験を元に次の春と夏の大会につなげたい。

**宮内雄馬君**

がんばったが、7回から点を入れられて口惜しかった。途中まで0点で抑えていたが、自分たちの力不足でたくさん点を入れられてしまい、力が及ばないと感じた。

**近間亮太君**

とても惜しい試合だった。途中まではよかったが、もう少しという所で力が及ばなかった。最後の3点はみんなの力が出せてよかった。チャンスが生かせなかったことが残念だった。悪いところは察して見当たらなかったし、いい所が沢山あった。

## 応援者インタビュー

六回までよく戦ってくれたと思う。あと一本で流れは変わったと思う。
中村さん

とても頑張っていたと思います。
石王さん

最後まで諦めずにやっていてよかった。
玉木さん

前の試合よりも成長できて、すごく感動できる試合だった。
白石さん

多くの方々が応援に駆けつけて下さいました。

## 編集後記

今回の新聞は締め切り間に合うかどうか不安でした、正直ところきつかったけれど、何とか終わってよかったです。

編集者　翠　優里恵
大林　和也
山下　祐貴
橋内　慎輔

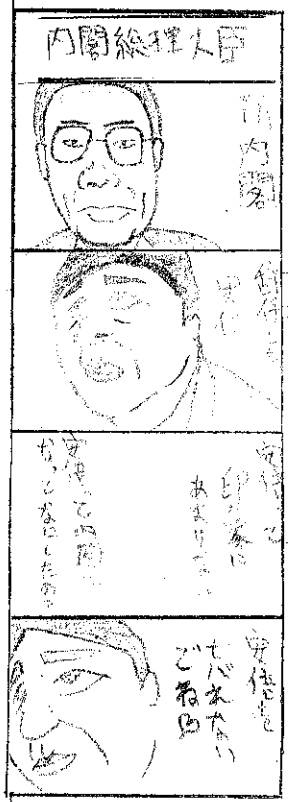
# 中学生が上高に体験入学

## ６６人が授業や部活動を体験

蒼穹（そうきゅう）

発行者
上士幌高等学校
新聞局
第２０号
平成19年10月24日

十月十八日に体験入学が行われ、六十六人の中学生が参加した。説明ガイダンスの後、体験授業（体育、英語、理科）が実施された。学校説明会では、生徒会執行部が制作したスライドやＯＢからのビデオレターが上映され、上高の魅力が紹介された。そのほか、吹奏楽部の演奏、野球部とバレー部による校歌の披露があった。体験入部では、中学生が高校生と一緒に部活動を体験した。




### 思いやることが大切

体験入学のメインとなる体験授業が各教室で行われた。三教科のうち、体育の授業では、植根先生と助手の伊藤先生が授業を行った。授業は、靴の履き方から始まった。上士幌中学の生徒が半数以上を占めたが、ゲームなどを通して、他校の生徒とコミュニケーションを図り、楽しい授業が展開された。

生徒企画が手をつなぎウェーブを作るものでは、まわりにあわせてウェーブを作ることに苦戦していた。

授業の最後に植根先生は、周りの人に気を配り、思いやることが大切だと話した。

円になり、ウェーブを作る中学生

### 授業を締めくくっていた。

参加した丹野さん（上士幌中）は、知らない人と手をつないで、ウェーブを作るのが難しかったと話した。

## 高校生の部活を体験する中学生達

練習をする野球部と気球の繋留を行う気球部

野球部では、中学生と高校生合同で2つに分かれてノックを受けていました。2つに分かれているので、人数が少なく、回ってくる回数が多いので、ものすごく頑張っていました。卓球部は、試合形式でゲームをしていて、本番のような気迫でプレイしていました。テニス同好会は暗い中で一生懸命に教えてもらいながら熱心に練習をしていました。バスケ部は、懸命に走りながらボールを追いかけて、中学生のために高校生がパスを出しシュートをさせていたりと、高校生の優しさがみられました。

### 上高の自慢は生徒と先生、そして学校

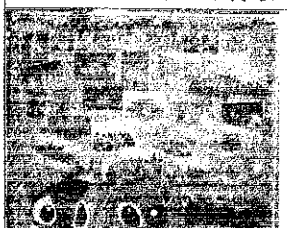
体験授業の後に行われた学校説明会では、執行部が作ったスライドが上映され、上高の一年間の流れや学校祭の模様が紹介された。そして今年初の試みとして、弘前大学（青森県）に通う瓦井悟郎さんからのビデオレターが上映された。瓦井さんは「上高でしか味わえないものがたくさんある。これからの上高を盛り上げてほしい」と話した。

その後、吹奏楽部による野球部とバレー部の演奏、校歌披露が行われた。校歌を披露した三輪さん（１Ｂ）は、「新しい後輩が入ってくれるように気持ちを込めて歌った」と笑顔で話した。

学校説明会の後、校長先生に体験入学の感想を聞いたところ『６６人も来てくれてうれしい。挨拶でも言ったが、上高の自慢は生徒会や部活動の生徒、先生方が熱心なこと。また、安心で信頼できる学校も自慢のひとつ。ぜひ今日来た中学生には上高に来てもらって完全燃焼してもらいたい』と話してくれた。

### スライドショーの制作秘話

上高の紹介スライドは、動画を取り入れたことによって、臨場感があり、とてもすばらしいものだった。その制作の裏では菅野君（３Ａ）と駒形君（２Ａ）が放課後遅くまで残って作り上げた作品である。学校祭を担当した菅野君は「今回は動画を取り入れて工夫した。取材をしたとき、みんなに自然な動きをしてもらうのが大変だった」と語ってくれた。一方、体験入学を担当した駒形君は「先輩に教えてもらい、自分で工夫しながら一つひとつ写真を入れるのが大変だった」と語ってくれた。


生徒会が作成した掲示板

英語では、新明先生と山口先生が授業を担当した。英語での自己紹介から始まり、英語で質問しあったり、英文のシャドウイングなどに取り組んでいた。その他にも、英語の曲の穴埋めや英文の和訳なども行っていた。この授業を受けた小林君は英語がよりわかって良かったですとコメントしてくれた。

今回の体験入学で最後の仕事となった前生徒会執行部の皆さん、お疲れ様でした。

## 編集後記

今回は、いつもの紙面のレイアウトを変え、見やすいように工夫した。そのため体験授業の様子の一部書くことができなかったので、ここに感想を書きたいと思う。

理科の授業では「視覚世界の謎に迫る」「色を分ける細胞」という二つのテーマで授業がおこなわれた。目の錯覚を利用したものや光の三原色などの授業をし、中学生はとても興味深く聞いていた。

取材に協力してくださったみなさまどうもありがとうございました。

編集者
翠　優里恵
山下　祐貴
楠内　慎輔
大林　和也

# 蒼穹（そうきゅう）

発行者
上士幌高等学校
新聞局
第２９号
平成20年2月7日

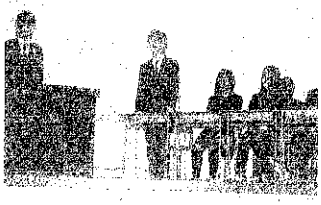
## 受け継がれるもの

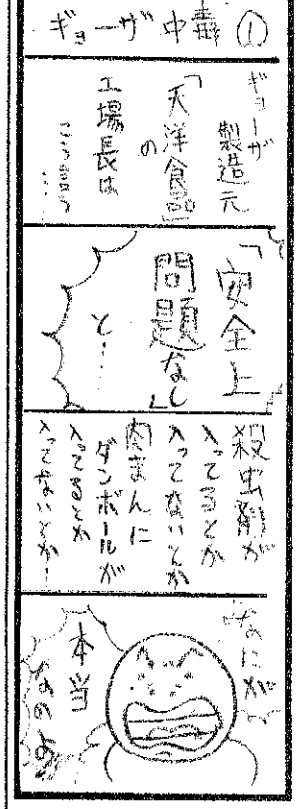
一月三一日、三年生にとって最後の行事である成人式をテーマにした予餞会が行われました。感謝を伝えようと生徒会執行部が中心となり企画を立て、準備をしていました。

最初はクイズ大会。クラス対抗戦で行われましたが全員が不正解になってしまうハプニングもあったり全員が楽しく参加できたゲームとなった。もちろん賞品は三年生が受け取りました。

次はメインイベントのクラスステージ。１Ａは「少年時代」を大合唱。現在の授業に見立てて表現。中には涙声になっている先輩もいました。１Ｂは「欽ちゃんの仮装大賞」で大爆笑。２Ａは「安全上問題なし」で大爆笑。２Ｂは踊りと合奏で、元気な一日に」。スライドを見る先輩達からは笑い声も聞こえていました。三年生代表の挨拶で澁谷さんは、「後輩達に任せるのは不安だったけれど、素敵な予餞会を作り上げるのを見て安心した」と語ってくれました。

最後は、在校生による合唱「旅立ちの日に」。スライドを執行部が中心となり企画の良さをアピール。三年生は上高での思い出を授業に見立てて表現。中には涙声になっている先輩もいました。

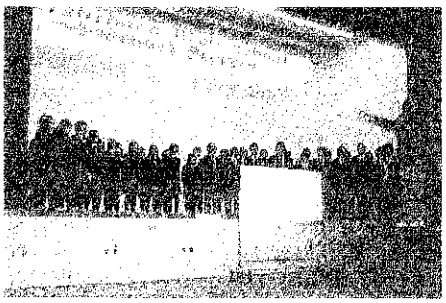





## やりきった先輩からのメッセージ

二月四日（月）、二年生を対象に第一多目的室で三年生が自らの体験談を話す機会があった。今回、代表に選ばれたのは、古賀さん、白石圭さん、白石はるかさん、菅野さん、澁谷さん、佐藤亜衣さん、金澤さんの七名。時間をぎりぎりまで使い、上高で過ごした三年間を振り返り、学んだ事を後輩に話した。途中、辛かったこの一年間や支えてくれた人への感謝の思いから、涙ぐむ場面も見られたものの、最後まで後輩に自分たちが学んだ事を少しでも多く吸収してもらおうと熱心に語った。

「なんでも話せる真の友を持つ」や「支えてもらえる人間になる」という先輩の言葉には根拠があると思った。多くの先輩方からは、「一年の時からもっと将来の事を考えて過ごせば良かった」と後悔する声も聞かれた。今の私たちと同じように、「進路意識も低かった」と先輩が語った体験談には、共感できる部分が数多くあり、進路についてもう一度真剣に考える良いきっかけとなった。

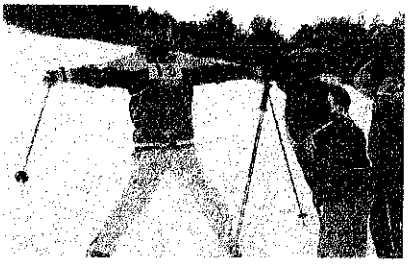


## 白銀の世界

## はしゃぐ無邪気(?)な高校生

二月一日（金）、雲ひとつない青空の下、糠平スキー場でスキー遠足が行われた。

出発前の生徒達は、スキーウェアに身を包み楽しそうだった。六割の生徒がスキーをレンタルしたのだが、スキーブーツで「足が痛い」、スキーを履くのが「面倒くさい」と思う生徒もいたのではないでしょうか？スキー場には本別高校の生徒が八十名いましたが、平日だったためリフトもスムーズに利用することができました。班行動の生徒とレッスンを受けるグループに分かれ、スキーの上手い人は次々とリフトに乗り、楽しそうに滑っていました。講師の一人である長屋先生は体重移動のかけ方や基礎基本を丁寧に教えてくれました。そのおかげでレッスンを受けた生徒は、みんな午後からリフトに乗り、楽しく滑ることができました。また来年も良い天気でスキー遠足が行われるといいですね。



## 編集後記

局員が少なく、取材活動が思うように進まないため、「蒼穹」を発行できませんでした。しかし、今日、こうしてあと一号で三十号を発行することになります。

二十九号を作るにあたり、「予餞会」、「スキー遠足」そして「三年生の体験談」を取材しました。なかでも、メインとなったのは予餞会。三年生にとって最後の行事はとても盛り上がりました。たくさんの笑いがあるとても良い時間だったと思います。この予餞会を裏で懸命に支えてくれた生徒会執行部の皆さん、お疲れ様でした。

編集者　橋内　慎輔
山下　祐貴
翠　優里恵